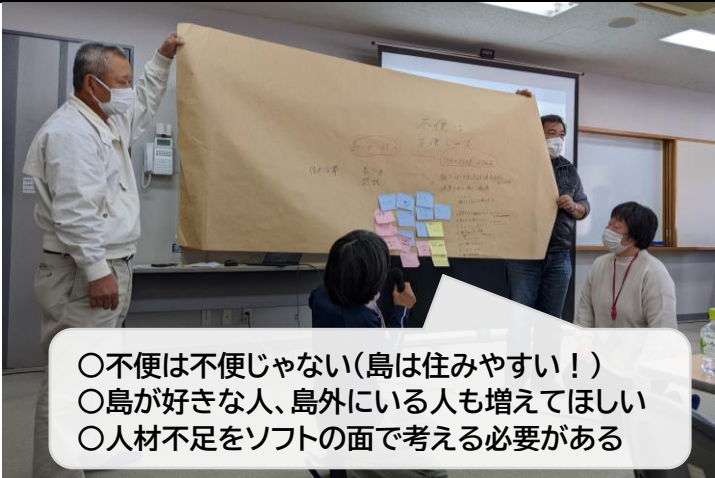
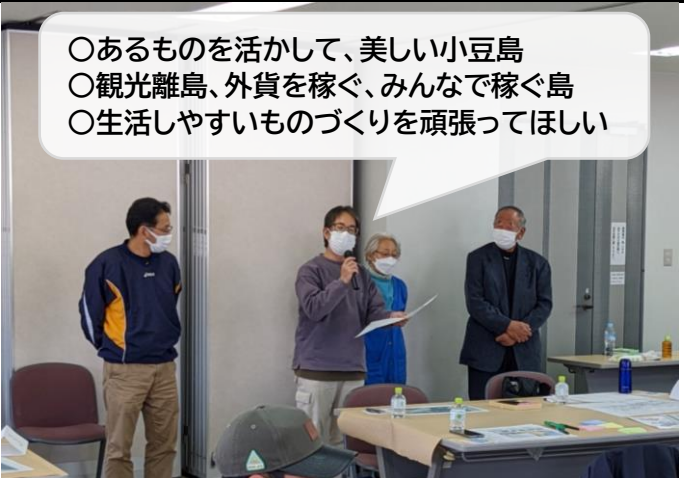
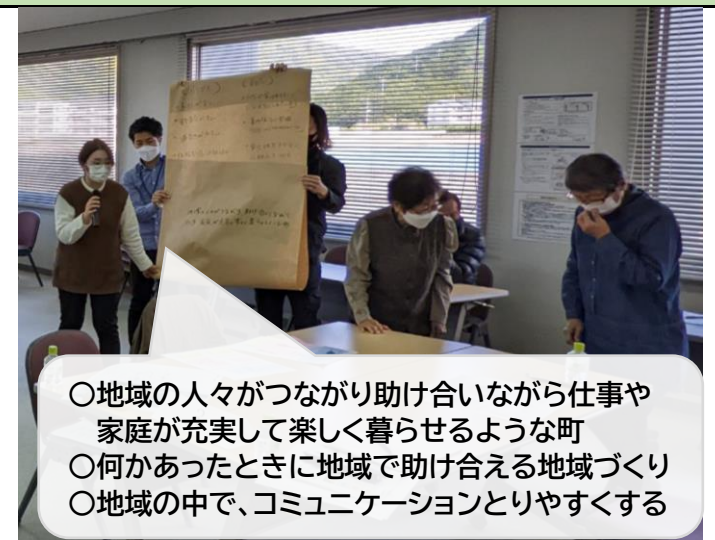
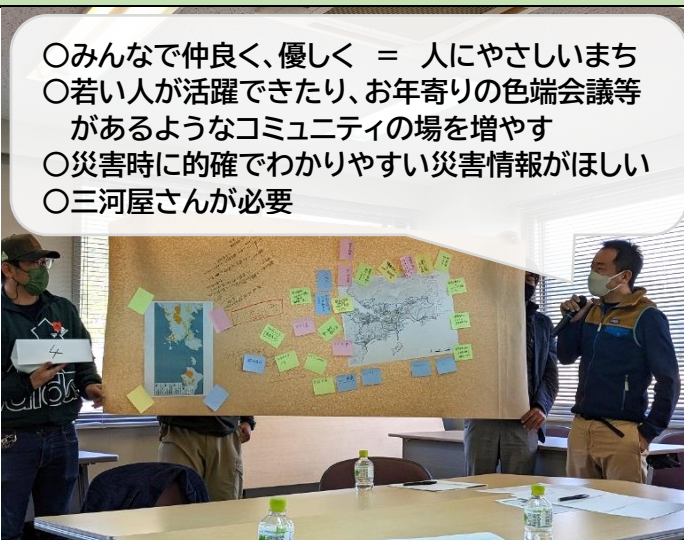
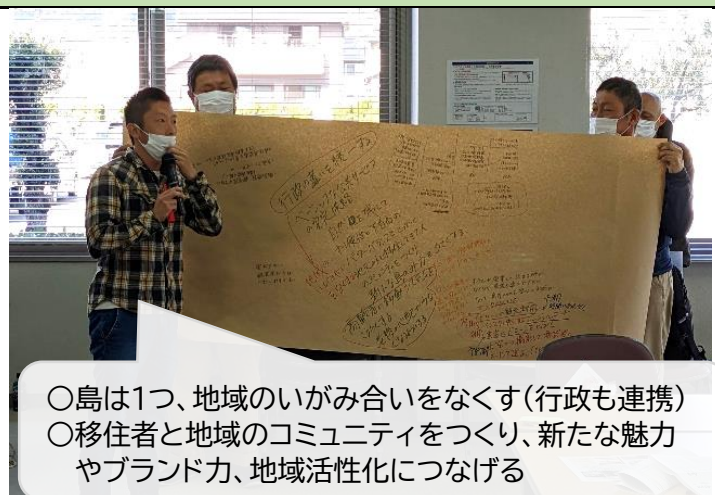
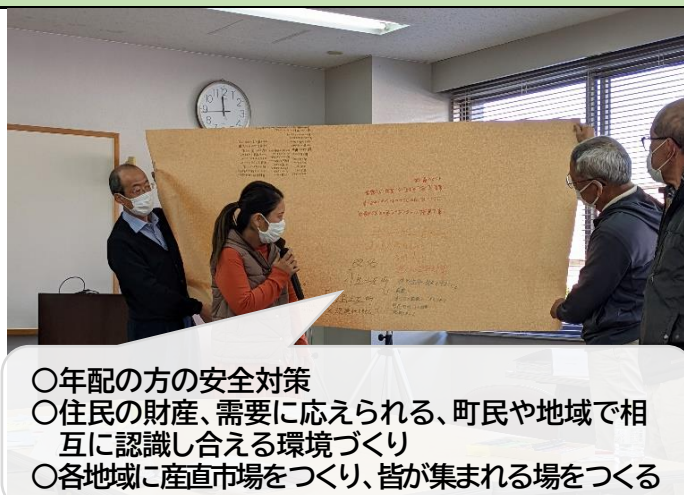


理想的な暮らし方の方向性について

ワークショップの最後に、皆さんが当日検討した内容をグループごとに発表しました。

1 班	2 班
 ○不便は不便じゃない(島は住みやすい！) ○島が好きな人、島外にいる人も増えてほしい ○人材不足をソフトの面で考える必要がある	 ○あるものを活かして、美しい小豆島 ○観光離島、外貨を稼ぐ、みんなで稼ぐ島 ○生活しやすいものづくりを頑張してほしい
3 班	4 班
 ○地域の人々がつながり助け合いながら仕事や家庭が充実して楽しく暮らせるような町 ○何かあったときに地域で助け合える地域づくり ○地域の中で、コミュニケーションとりやすくする	 ○みんなで仲良く、優しく = 人にやさしいまち ○若い人が活躍できたり、お年寄りの色端会議等があるようなコミュニティの場を増やす ○災害時に的確でわかりやすい災害情報がほしい ○三河屋さんが必要
5 班	6 班
 ○島は1つ、地域のいがみ合いをなくす(行政も連携) ○移住者と地域のコミュニティをつくり、新たな魅力やブランド力、地域活性化につなげる	 ○年配の方の安全対策 ○住民の財産、需要に応えられる、町民や地域で相互に認識し合える環境づくり ○各地域に産直市場をつくり、皆が集まれる場をつくる

次回

第3回ワークショップについて

2023/1/29(日) 9:30～ テーマ：「理想の暮らしに必要な都市機能 防災対策」

- 2 回目の結果を踏まえ、まちにずっと住み続けるために必要な都市機能や命を守るための防災対策といった具体的な施設の機能や防災に関する取組について、検討を行います。

2022 年 11 月
No. 02

土庄町役場 建設課
TEL:0879-62-7006
FAX:0879-62-2400

土庄町まちづくり

ワークショップニュース



まちの現状と課題をもとに、理想的な暮らし方について検討しました！

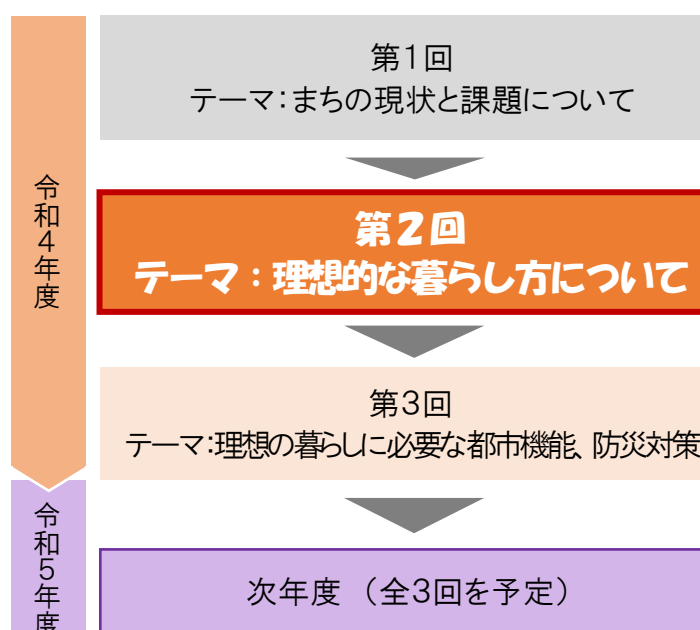
土庄町では、急激な人口減少・少子高齢化に直面しており、自家用車の増加や産業の変化、頻発・激甚化する自然災害、財政の悪化など、社会構造の変化に対応した持続可能なまちづくりの実現が求められています。

そのような中で、昨年度、策定した「土庄町都市計画マスタープラン」で示す基本的な方針に実効性を与えることができ、また規制と誘導措置によって、持続可能なまちづくりの実現を目指そうとする、『立地適正化計画』を今年度から2か年かけて検討することとなりました。

令和4年10月30日に第2回目の土庄町まちづくりワークショップを開催しました。今回は、『理想的な暮らし方』をテーマに検討を行いました。

検討するにあたって、前回の結果（まちの現状と課題について）を振り返り、各テーマに沿って、グループごとに検討を行いました。

ワークショップの予定（全6回）



～当日のプログラム～

1. 開会
2. 第1回WSの振り返り
3. ワークショップ（以下、検討テーマ）
 - ・身近に必要な施設について
 - ・移動における不安（困りごと）やその対応
 - ・防災面での困りごととその対策・対処方法
 - ・コミュニティの困りごととその対策・対処方法
 - ・交流（観光）の面での困りごととその対策・対処方法
 - ・理想的な暮らし方の方向性について
 - ・グループ発表
5. 閉会

2 回目は「理想的な暮らし方について」をテーマに、話し合いました！

身近に必要なと思う施設、各テーマに関する困りごととその対応や対策について

第 1 回目のワークショップ結果を基に、各テーマに沿って、班ごとに検討いただきました。以下で整理しているものは全体での主な意見になります。

テーマ	主な意見（意見の一部抜粋）		
身近に必要なと思う施設	● 病院 / クリニック / 薬局 ● 役場 ● 自治会館、中央公民館 ● 学校(小中高) 学校(小学校、子供園)、児童館、図書館 ● 警察、消防署 ● スーパー※毎日の生活に必要 ● ドラッグストア、ホームセンター ● コンビニ	● 郵便局 ● 銀行 ● 社会福祉施設、高齢者の集合住宅、老人ホーム ● 飲食店(大衆食堂、ラーメン屋、ファミレス、パン屋、カフェ等) ● 各商店(肉屋、米屋、酒屋、本屋、衣服・雑貨店) ● 産直所、小部落ごとに日用品を扱う小売店 ● 停留所、港湾設備 ● 生協	● 宅配センター、荷物取扱所 ● 移動販売 ● リユース、リサイクル施設 ● 宿泊施設、観光施設 ● スポーツ施設、(ジムなど)運動施設 ● 娯楽施設(飲み屋)他 ● 電気水道屋 ● 家屋修理関係の店
移動	困りごと	その対応・対策	
	● 運転が不安だが、ないと生活できない ● 買い物や通院が不安。通院の乗り換えが大変。緊急時の対応。 ● バスの利便性(バス停からの距離、便数、金額、路線) ● 免許返納時にオーブバス回数券もらえるが、用途を限定されている。 ● タクシーは料金が高くて使えない。支援してくれる人がほしい。デマンドタクシーがあるが、使えない。 ● 電動車椅子が通行しにくい道ばかり(段差、巾不足、グレーチングにはまる) ● 移動全般(夜間の移動の安全性 / 自力で自由に移動ができない(買物・病院) / 雨の中の移動) ● 荷物の運搬(大きなもの、重いもの)、ゴミ出し(特に重たいゴミ) ● 道がせまく、崩れているところもある	● 身近に配車センターがあればよい ● 自動運転の車の活用 ● バス回数券でなく、他にも使える券にする。(介護タクシー利用台数が少ない) ● ネット環境の充実(オンライン診療) ● 移動販売車、配達サービスの充実(薬等の配達も含む) ● バスや乗合タクシーの利用促進 ● シェアライド、自転車での移動の充実や活用 ● 箱バンでも良いから循環バスを走らせてほしい ● シニアカーが通りやすい道の整備 ● 病院等へ行く際に予約日に家の近くまで送迎してくれる支援が欲しい	
防災	● 避難所全般(避難所が少ない(徒歩圏内)、避難所がない地区がある(公民館も危ない)、避難所までが遠く、行くまでがあぶない、避難場所への移動手段) ● 避難ルートを示してほしい。細やかな対応が必要 ● 災害時の避難、障害者等の避難。独居老人への対応、寝たきり老人や障害者の避難所への誘導 ● 現実的な防災訓練が必要。老人の一人住まいや寝ている部屋の把握も必要。 ● 緊急車両が通れない住宅密集地がある ● 高潮になった時に車や家が心配(道が寸断されたら孤島になる) ● 空き家(空き家から火災、台風で崩れる。⇒近隣に被害) ● 災害速報が出た時に「ここに行けば大丈夫！」と思える雨風がしのげる場所がない。結局どこへ行けばいいのかわからない。Jアラートが鳴った時の逃げ場所がない ● 危ない場所⇒「ハザードマップ」、安全な場所のマップをほしい	● 避難が必要な人の確認システム ● 近所の方同士で避難時の行動を相談しておく ● 避難場所の確保(例えばホテルかいろやオリビアン等の高い所にあるホテルと町が契約しておく等) ● 災害の種類に関係なく避難できる施設(最大想定規模に耐えられるような設備に近づける) ● 街灯の追加 ● 空き家の処分 ● ぬけ道の確保 ● 緊急車両の軽自動車版	
コミュニティ	● 耕作放棄地が増加。いのししが防げない。農道が劣化している ● 自治会等の高齢化&少子化、会員や役員のなり手不足。自治会運営がなりたたない(自治活動、掃除、ゴミ当番) ● 子供会や婦人会など、世話する人がいない。子供の親が忙しくて参加できない(子供の数が減り、負担が増えた) ● 誰がどこにいるのかわかりにくくなった ● 地区の人が自由に集まれる場所、イベント等がない。自治会公民がいつも閉まっている ● 地区に移住してきた人達(コミュニティ)との接点が少ない ● 高齢者が増加し、一人世帯の見守りなども必要 ● 若者が生活して子育てできるほど稼げない ● 自治会放送が壊れている ● 住む所と働く所のコミュニティの場所が近すぎると子育ての相談などがしにくい	● 世話人や代表者で年のはじめに話合う。自治会が声かけし、集めて相談。 ● 自治会の活動をポイント制にする。 ● 気軽に集まり、少しおしゃべりなどできる公民館等の活用を検討。 ● 施設のリフォームを大学生(建築系)に依頼 = 連携大学を活用 ● 役所が自治会の支援をする(溝掃除や木の切断) ● もし町をエリア分けして作りなおすとしたら、世代ごとの性格など、暮らし方でわけてはどうか。 ● 皆が出やすい地域の行事をつくる(掃除、祭り他)。 / 地域の特性を活かせるものを残す、増やす。 ● 若者は郊外、高齢者は中心部に集まれる場所があり、観光にも力を入れる場所も欲しい。(若者がしづかり稼げる所) ● 自治会への加入、義務化できないか。 ● 住む所、働く所、子育てする所など少しずつ離れている方が心おきなく話せる ● 防災無線の発信機能をつける。(独居老人の方のみ)	
交流(観光)の面	● 観光施設の老朽化、観光資源の減少 ● 案内できる食事処が少ない / 公衆トイレが少ない ● バス停が古くなっている、バスのリンクが悪い ● 道がわかりにくい、通りにくい ● 外国人にも対応できる環境が必要 ● 船賃が高い。割引制度の周知が悪い、知られていない。 ● 近隣住民とのトラブルもある。 ● 観光地のゴミ問題(どこに捨てたらいいかわからない) ● 土庄町は対外的に小豆島と認識されていない。	● 案内板の整備、注意表示 ● まちの魅力や良さを知ってもらい、地域への受け入れ、イメージ戦略が必要 ● 割引制度(目的に応じて) ● 今ある物を有効活用する ● お接待文化の復活 ● 改名「小豆土庄町」、「小豆島土庄町」等 ● 公共のゴミ箱で回収	

